

平成 28 年度事業報告書

平成 29 年 4 月 26 日
公益社団法人 日本左官会議

1 概況

日本左官会議は、平成 24 年 6 月 21 日、一般社団法人として認可され、平成 25 年 3 月 1 日には、公益社団法人として認可された。平成 28 年度は公益社団法人として 4 年目となった。そこで、左官を取り巻く現状に鑑みて、公益事業項目を見直す準備を行った。

2 事業期間

平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日

3 事業の状況

新たに、日本左官会議が主催する「講演会キャラバン」を開始。今期は東京と名古屋で行った。多くの来場者を集め、他分野への広報と交流はもちろん、後継者の奮起を促すという意味でも大きな成果を得た。また、見学会、泥団子教室、黒漆喰磨きの講習会といった従来 of 活動も引き続き行った。左官職人を紹介してほしいという問合せは増えており、また、海外から日本の左官技術を知りたい、という声も以前にも増して聞かれるようになってきた。ただし、潜在的な需要はあっても、左官の技術自体や左官職人の存在はまだまだ知られておらず、伝統技術全般にいえることではあるが、後継者の不足という問題も大きく浮かび上がっている。そこで、左官技術を継承し、後世に伝えていくという当初の目的に沿って「公益目的事業」の項目を見直し、広報に力を入れることにした。

4 事業の概要

1) 建築関係者や一般の人を対象とした講座、セミナー、シンポジウム、研究会、出版など

6 月 13 日（月）、東京大学弥生講堂一条ホールで、講演会キャラバン「職人がいる町、塗り壁のある暮らし----その終焉がもたらすもの」を主催した。挾土秀平、小林隆男、川口正樹、小沼充、横山和弘、長田幸司の計 6 名の左官職人が登壇。建築家・研究者の宇野勇治が進行した。戦後の左官が辿ってきた道を解説し、通常は見過ごされがちだ、町の風景をつくってきた地域の左官仕事を紹介、また、建築家・西田司氏も加わったパネルディスカッションも行った。左官側が一般の方々や設計者などに向けて現状を訴えるというこれまでにない内容となった。約 220 名を集め、アンケートを見てもたいへん好評を得ていた。

12 月 10 日（土）には、名古屋工業大学 4 号館ホールでも第二弾を行った。一般社団法人日本建築協会東海支部との共催で、挾土秀平、小林隆男、川口正樹、西川和也、松木憲司、増田允、本多俊祐、

計7名の左官が登壇、建築家の柳沢究も加わった。参加者は約150名で、ふだんはあまり伝えられない職人の肉声が聞け、設計士や一般の方々、学生との交流も図れたとたいへん好評だった。

4月17日(日)、静岡県熱海で、MOA美術館の水晶殿、旧日向別邸、起雲閣の見学会を行った。左官、設計士、一般の方を含め23名が参加、旧日向別邸や起雲閣では左官職人たちがその場の左官の壁について解説、現地の学芸員に感謝されるという一幕もあった。

6月24日(金)～9月25日(日)に東京・六本木の21_21 DESIGN SIGHTで開催された「土木展」(主催・21_21 DESIGN SIGHT 公益財団法人三宅一生デザイン文化財団)より日本左官会議として参加依頼を受け、版築風の意匠でピラミッド型の立体作品「山」を作成・出展した。プレスレビューではメディアを対象に作品について解説。同展には5万名以上が来場した。

神奈川まちづかい塾より、湘南邸園文化祭2016年の企画のひとつとして、神奈川県小田原で「旧松本剛吉別邸で左官の話と雨香亭での呈茶&まち歩き」の講師紹介を依頼され、左官の長田幸司を紹介、11月5日(土)に開催された。

2) 左官職人を対象とした研修会、指導者育成事業

10月2日(日)、秋田増田町で開かれた第4回「黒漆喰磨きの集い」に技術協力。左官の小林隆男が若手左官に対して、黒漆喰磨きを実演講習した。合わせて一般参加者向けに土団子づくり、土塗り体験も行った。

3) 土や自然素材を使った建築技術の研究開発、実際施工、助言、コンサルティング

次年度から、左官や土の建築を研究している研究者たちを集めて、左官職人と交流する研究会を開催する。今年度はそのための情報収集を行った。

4) 建築関連法案の研究と、法案への提言、提案

7月22日(金)、東京・新宿の工学院大学で開かれた「2016年熊本地震 文化財ドクター派遣事業 中間報告会」(主催・熊本地震被災文化財建造物復旧支援委員会・公益社団法人日本建築士会連合会<復旧支援委員会事務局>)に、理事と会員計4名が参加。地震で傷ついてしまった古い建物は、誰がどのように調査し、修復の対象や方法を決め、実施していくのか、現在の動きを知ることができた。阪神・淡路大震災で多くの古い建物がその価値も検討せずに壊されてしまったことを受けて、建築士たちはネットワークをつくり、新潟や熊本の地震の際に、いち早く復旧の支援を行っている。一方、文化財などの修復では通常、左官などの職人は方法や予算が決定された後に、下請けとして加わっている。被災建物が大量に出現する被災地では、伝統技法をもつ職人が集まらず、困る場合もあるという。こういった現状を踏まえ、職人側で提案、実施できることはないか、引き続き検討していく。

5) 伝統的建築物の修復・保全活動

岩手県花泉の唐獅子土蔵の修復事業を継続。C家の土蔵は、かなり崩れていた腰壁の煉瓦部分全体の修復をほぼ完了した。これまで、東日本大震災でばらばらになっていた煉瓦を集め、整理し、きれいに掃除しておいた。今期、残りの煉瓦も部分もいったんすべて取り外し、整理し、掃除し、合わせて積み直す作業を行った。躯体を支える大きな部分であり、また続く余震でさらに全体の傷みが進んでいただけに、補強しながらの積み直しは相当に神経をつかう作業となった。まず南面の壁を修復し、期間において北面と西面を行った。まだ修復の途中ではあるが、この補強と煉瓦の積み直しのおかげで、余震に対して耐力がかなり上がった。

6) 一般の人や子どもを対象とした体験会、見学会

8月20日(土)21日(日)、宮城県石巻の斎藤氏庭園で、「親子泥団子体験教室」を開催した。講師は左官の小林隆男。午前午後合わせて、石巻市内の親子が約70名参加。タナクリームと色土を混ぜた材料で、泥団子を磨き上げた。合わせて、改修中の土蔵内部の見学も行い、左官技術について解説した。

7) 左官中心的建築物の建設と宿泊体験施設の運営

これについては、現段階で具体的な見通しが立たないため、事業項目から削除することにした。

8) 土と左官に関する国際交流

左官の松木憲司がイタリア・ミラノで土づくり、表面を磨いた竈の展示やワークショップに加えて、土磨きのコンテストを実施。その賞品として、イタリアから5人の建築家たちが来日した。当会議はそれらの情報をウェブサイトやメールニュースで発信、11月29日、三重県湯の山温泉で行われた彼らによる報告会や、12月3日、都内で行われた見学ツアーに会員が参加した。

5 会員の状況

名誉会員 2名	顧問会員 8名	正会員 22名	準会員 23名
支援会員 53名	賛助会員 6社	計 114名・団体 (平成29年2月29日現在)	

6 役員などに関する事項

議長	挾土秀平	職人社秀平組
副議長	小林隆男	江州左官土舟
副議長	原田進	原田左研
総務理事	宇野勇治	宇野総合計画事務所
事務局長	多田君枝	アイシオール
理事	川口正樹	川口左官

理事	小沼充	小沼工業
理事	今野等	今野左官店
理事	豊永郁代	アイシオール
理事	西川和也	工房カズ
理事	松木憲司	蒼築舎
理事	山本忠和	山本工業所
監事	吉村浩志	

すべて非常勤

7 理事会の開催状況

当該事業期間中、下記の通り、理事会を開催した。

4月1日 主たる事務所において、理事会を理事7名と監事の出席により開催。平成27年度事業報告書、第4期決算報告書を承認。4月の総会の開催を決議。議長、副議長、総務理事、事務局長は、みずからが所管している職務の執行状況について、順次報告を行った。

4月16日 神奈川県足柄下郡湯河原町うおき内会議室において、理事会を理事8名と監事の出席により開催。代表理事（議長）、副議長、総務理事、事務局長を選定する提案がなされ、被選任者は就任を承諾した。

2月1日 主たる事務所において、理事会を理事7名と監事の出席により開催。平成29年度事業計画書、収支予算書、公益目的事業の内容変更にともなう変更認定申請、各種会員会費及び寄付金に関する規定の改定を承認した。

8 附属明細書について

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書を作成しない。

以上